

2010年(平成22)4月

カルメル
霊性センターニュース



キリストの復活

4月

253号

DE IMITATIONE CHRISTI

キリストにならう

——バルバロ訳——



第一巻

第16章 他人の欠点を耐え忍ぶ

4 兄弟愛

しかし神は、「互いの荷を耐え忍ぶ」(ガラテア6・2)ことを、私たちにならわせるために、そうお定めになった。誰一人として、欠点のない者、重荷のない者、自分に満足している者、自分の知識に不足をかんじていない者はいないからである。私たちは、互いに耐え忍び、慰め合い、助け合い、教え合い、戒め合わなければならない。人の徳いかんは逆境の時に、いっそうよくわかる。なぜなら、徳をおこなう機会というものは、人を弱くするものではなく、その人となりをあらわす契機となるからである。

第17章 修道生活

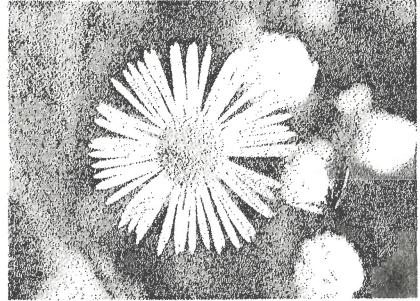
1、 自 制

他人と平和に仲よく生活したいならば、あなたは、多くの事柄において自分の心を砕くことを学ばなければならない。修道院や修道会のなかで、不平もなく、死ぬまで忠実に生活することは、決して小さなことではない。そこでより生活を送り、安らかに最後の目を閉じる人は幸せである。もしあなたが修道院において、なすべきことをなし、徳の進歩を目指したいと思うならば、自分はこの中に亡命した旅人であると考えなさい(ヘブライ11・13参照)。あなたが真の修道生活をおこなおうとするならば、キリストへの愛のために、おろかな者にならなければならない(1コリント4・10参照)。

心の泉



神のいのちは
わたしたちのうちに
隠れるように
存在しているのではなく



生き生きとして

常に広がろうとします

—幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父 ocd

自然界はまさにいのちの祭典に華やぐ頃となりました。今までじっと暗い土の中にとじこもっていた種子が芽を出し、厳しい冬の寒さの中で一見枯れたような枝からいのちが躍動しはじめました。

自然界においても、いのちはある意味ですでに神秘です。種を蒔く人は自分が蒔いた種がどのように芽を出すかわかりません。「種は芽を出し、その目が成長する」ことは知っていますが、どのようにしてかはわかりません。恵みは「種のように」成長します。種のようにその内に成長の法則をもっているからです。

神のいのちはわたしたちのうちに、隠れるように存在しているのではなく、生き生きとして常に広がろうとします。

ひとつの麦粒には、そのうちに麦の穂を秘めているように、恵みのうちには神との一致にいたるいのちのダイナミズムが秘められており、その人を神との一致へ導きます。

恵みのうちにあるこの力を信じましょう。わたしたちから来るのではない、わたしたちの可能性から来るのでもないこの恵みのうちにある活力から来る聖性への呼びかけを信じましょう。人生の浮き沈みなどの出来事すべてを通して成長する恵みに信頼しましょう。

伊従 信子
ノートルダム・ド・ヴィ

* 『神と親しく生きる いのりの道』
聖母の騎士社、2009

一握りの土

九里 彰

先日、公園に行ったところ、保育園のおちびさんたちが十数人、遊んでいた。数人の保母さんたちが世話をしていたので、おちびさんたちは幾つか聞いたところ、何と「二歳で一す」という返事が返ってきた。「えっ！二歳でもうこんなにいろいろできるの？」という新鮮な驚きが、わたしの心の中をよぎった。実際、子供たちは思い思いに、木馬に乗ったり、すべり台ですべったり、ブランコに乗ったり、砂場で遊んだりしていた。まったく無心で、通りがかりの（お母さんに連れられて来ていた）やはり二歳ぐらいの男の子も一緒になって遊んでいた。

と、面白い光景を目撃した。木馬に乗りたかったのであろう。一人の子が地面から土を一握りつかんで、木馬に乗っている子に差し出した。そして木馬に乗っている子がそれを受け取ると、その子も後ろに乗ったのである。どうやら料金を払ったということのようであった。木馬は三四台あったが、前後に動く木馬は人気があり、いつもだれかが乗っていた。そしてその後も、同じような光景が繰り返されていた。

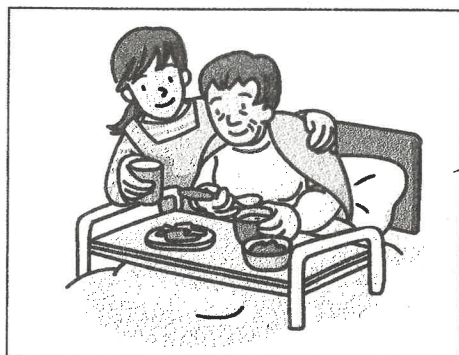
それにしても、お金とは何だろうか。おちびさんたちにとって、一握りの土は、単に自分が木馬に乗りたいことを相手に伝える意思表示にすぎなかった。だからこそ、小さい子はお店で自分のほしい物を親が買ってくれないと、泣き叫ぶのだろう。四角い紙切れと丸い金属の意味がまったく理解できないからである。

貨幣経済の前にも物々交換があり、そこでも貧富の差はあったと思われる。しかし、貨幣の出現で、その差は飛躍的に拡大した。確かにこの世では、お金がなければ生きてゆけない。大人はこのために絶えず働き、労苦する。中には、人をだましたり、傷つけたり、人殺しまでする者もいる。

お金のいない世界、それは小さな子供の世界と天国だけなのかもしれない。もっとも「地獄の沙汰も金次第」という言葉もあるので、安心できないが…



ヘンリ・ナーウェンの 旅路の糧 (131)



存在を産み出す不在

病気の人や臨終の床にある人や閉じこもりの人や障害を持った人や孤独な人をたずねることは、よいことです。けれども、私たちの訪問が短かかったり、時々しか訪問できなかつたことに、罪悪感もたないことも重要です。しばしば私たちは、自分の限界について弁解的となるあまり、訪問しても、彼らと本当に共にいることが難しくなってしまいます。短い時間でも病気の人のかたわらにしっかりと存在することは、長い時間いて、忙しすぎてしばしば来ることができない理由を長々と説明するより、ずっといいことでしょう。

私たちが友人たちと共にいる時、彼らのかたわらにしっかりと存在することができるならば、私たちの不在もまた、多くの実を結ぶことでしょう。友人たちはこう言うでしょうから。「彼は私をたずねてくれた」とか、「彼女は私をたずねてくれた」と。そして私たちが不在であっても、私たちの存在が産み出す絶えることのない恵みを見出すでしょう。

(0314)

去ることによって霊をもたらしこと

しばしば私たちが不在の時に、神の霊はご自分を表わされます。イエスは弟子たちのもとを去る時、こう言われました。「わたしが去って行くのは、あなたがたのためになる。わたしが去って行かなければ、弁護者〔霊〕はあなたがたのところに来ないからである。…しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる」(ヨハ 16:7, 13)。イエスが不在の時にのみ、イエスの友たちは、彼の存在の意味を完全に見出しました。彼の不在の時にのみ、彼らはその言葉を完全に理解し、彼との完全な交わりを体験しました。彼の不在の時にのみ、彼らは信仰と希望と愛の共同体として集まることができました。

私たちが友たちをイエスの名によってたずねること、——私たちを通してイエスが彼らのもとに現れることを自分自身に求めるならば、私たちが去ることも、彼らにイエスの霊をもたらしことであると信じることができます。こうして私たちの存在ばかりでなく、私たちの不在もまた他者への贈り物となるのです。

(0314)

(九里 彰訳)

復活の主日 ヨハネ 20, 1-9

「見て、信じた」(ヨハネ 20, 8)。

マグダラのマリアは、朝早く、まだ暗い内に、墓に行き、予期に反して「墓から石が取り除けてあるのを見た」。石が取り除けてある、この動作の行動主体が、神であることを示す受動形が使用されている。人間の無力さの象徴、眠りの時である夜の内に、人間が行動を起こす以前に、神は、すでに働いて、十字架の上で死んだイエスを復活させておられる。この神の主導権の枠内に、今日の福音での人間の全行動は包まれ、展開されている、ただ、神の働きに人間は気付いてはいないのであるが。

旧約聖書に記されている神のイスラエルへの救済行動は、確かに、人間が、自分自身をも自力で救出できない限界に直面し、また、父である神以外のいかなる勢力も競合関係に入れたい状況を確認させるとき、始められている。旧約聖書の原点、出エジプトの過ぎ越しのときにも、「主は荒れ野で彼を見出し、けだもののほえる不毛の地でこれを見つけ、これを囲い、いたわり、御自分の瞳のように守られた。鷲が巣を揺り動かし、雛の上を飛び翔り、羽を広げて捉え、翼に乗せて運ぶように、ただ主のみ、その民を導き、外国の神は彼と共にいなかった」(申命記 32, 10-12)。主の僕ナザレのイエスの過ぎ越しのときにも、神のみが、他のいかなるものにもうかがい知ることのできない力強さで、働いておられる。この事実の認知に、人間はいかに目覚めることができるのか。その唯一の方法とは、人間が能力の臨界点に立たされ、その境界線のかなたを垣間見ることが恵みによって許されることのみであろう。

マリアは、遺骸であってもイエスのより近くにとの愛情に押されて墓に来た。しかし、予期に反して遺体の不在の事実直面し、より深い喪失感に陥れた事実を報告する。シモン・ペトロも、もう一人の弟子と共に墓に急ぎ、マリアの言葉を確認するが、整頓されている亜麻布や頭を包んでいた覆いを見て、遺体は盗まれたのではない、と分かる。それから「イエスが愛しておられた弟子」も墓に入ってきて、「見て、信じた」。見たものは、空の墓、これは、まったく地上的なことである、しかし、その奥に、神が働いておられることを認める信仰に飛躍しはじめている。この飛躍を支えるのは、聖書に啓示される神である父の人間への愛なのである。

ルカ 渡辺幹夫

復活節第2主日 (ヨハネ 20:19~31)

今日の復活節第2主日は、教皇ヨハネ パウロ二世によって神の慈しみの主日と呼ばれるようになりました。主の復活の八日後、イエスは再び弟子たちに姿を現わされました。特別に弟子の一人に、ご自身を見せたいと思われたからです。トマスに！復活された夜初めて主が弟子たちの間に立たれたとき、トマスはそこにいませんでした。どうして？それは神のみ旨！もしそこにトマスがいたなら、今日のトマスとイエスの壮大荘厳な場面を見ることはできなかったでしょう。

神の慈しみと憐れみ！ご復活の夜弟子たちの前に立たれたとき、イエスは神の憐れみについて語り、弟子たちに罪を赦す権能をお与えになります。これは神の憐れみの伝言ではないでしょうか？神は、真の悔しゅんと固い決意をもって罪を告白する人には誰にでも憐れみを注いでくださいます。同様に、私たちが周囲の人々にたいして憐れみと思いやりの心を持つように勧めてくださいます。どんなに多くの不愉快なことがもたらされても、私たちはイエス キリストの心で兄弟姉妹を赦さなければなりません。全ての人にたいして、憐れみの心を持たなければなりません。

イエスが姿を現わして下さること、それは既に憐れみのしるしです。そこにいる人々にとって愛の証しであり、神の御子であるイエスの父性的な配慮の証拠です。なぜならイエスは、父が子を慈しむ心をもって私たちの一人ひとりを見守っておられるからです。イエスは死の直前に、弟子たちにおっしゃいました：“わたしが父の内におり、父がわたしの内におられると、わたしが言うのを信じなさい” (ヨハネ 14-11)。しかし御父のやさしさは、復活された主がご自分の傷を、特にそのわき腹の傷（尊い聖心にまで達する傷）を見せてくださったときに最大限に示されました。

これはあの夜、トマスが経験しなければならなかったことです。トマスが救い主である主の傷に指を入れたとき、トマスは目に見える形で神の愛と無限の憐れみを経験しました。このように自分で神の愛に力強く触れていただく経験をしなかったなら、どのようにしてトマスはこれほどの信仰と愛をもってイエスの神性を告白出来たのでしょうか。人は神に触れるとき、神は無限の憐れみ深い愛によって人に触れてくださるのです。

“このほかにも、イエスは弟子たちの前で、多くのしるしをなさったが、それはこの書物に書かれていない。これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである。” (ヨハネ 20-30,31) 憐れみ深いイエスがお望みになるただ一つのこと：それは全ての人がイエスのカルワリオの十字架の死によってもたらされた永遠の命を得ることです。復活されたイエスがお望みになるただ一つのこと：それは全ての人がキリストによって、キリストとともに、キリストの内に御父に栄光をもたらすために生きることです。 (Sr. Paulina)

復活節第三主日 ヨハネ 21, 1-19

「イエスは来て、パンを取って弟子たちに与えられた」(ヨハネ 21, 13)。

この言葉を含む箇所は、パンの増加の奇跡での「イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えてから、座っている人々に分け与えられた」(ヨハネ 6, 11)と呼応しています。また、「ルカによる福音」でのペトロや他の弟子たちに関連する箇所と照らし合い、響き合って深い意味を浮かび上がらせています。それらの箇所とは、ルカの第二十四章、見知らない旅人がパンを裂くときイエスだと弟子たちに分かった、エマオの弟子たちへの現れです。また、もう一箇所は、ルカの第五章の「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をなささい」とのイエスの言葉に従った結果の不思議な大漁の記事です。これらの記事と今日の福音を読み合わせると、浮かび上がってくるのは、イエスの十字架の死と復活を宣教してゆくイエスの弟子たち、初期教会共同体の宣教活動の姿勢です。

宣教活動は、人間である弟子たちの発意ではなく、イエスの派遣で始まります。また、その成功は、人間の計画、準備に依存するものではなく、その成果も、人間の価値観で評価できるものでもありません。とは言え、復活者イエスは、宣教に参加するように弟子たちを招かれ、彼らは力をつくして誠実に答えてゆかなければなりません。不漁で帰った弟子たちに、「子たちよ、何か食べるものがあるか」と言われた、これは、むしろ、「何も取れなかっただろう。自分たちの食べるものさえもないだろう」と言ったニュアンスを持っています。宣教に関する人間の計画や能力の無能さを確認させているのです。「船の右側に網を打ちなさい。そうすればとれるはずだ」。このイエスの言葉に従うと、大漁になります。それまでは、弟子たちには、イエスだとは分かっていません。ここで、イエスの愛しておられた弟子は、「主だ」と言います。それは、大漁を見て、以前のイエスの業を想起したからでしょう。イエスはすでに岸にいた。弟子たちが、陸に上がってみると、パンも魚も用意してあり、炭火もおこしてあった。復活者イエスは、弟子たちに先んじて、必要なものすべてを整えていてくださる、しかし、「今とった魚を何匹か持ってきなさい」と、この食事に参与することを人間の働き、貢献にも許されます。もはや、弟子たちの誰にもイエスであることは分かっています。イエスは、わたしたちの罪の贖いの子羊としてほふられた、これは、無償の恵み、人間のはからいすべてに先行する恩恵です。しかし、わたしたちのうちに実を結ぶには、信仰、自分をゆだねる決断を待っているのです。

ルカ 渡辺幹夫

***** みことばのひびき ***
復活節 第4主日

「イエスは言われた『わたしの羊はわたしの声を聞き分ける。

わたしは彼らを知っており、彼らはわたしについて来る。』」

(ヨハネ10:27~30)

イエスは善い羊飼いです：「わたしは善い羊飼いです」(ヨハネ10:11)とイエスは言われました。羊飼いは羊の群れを新鮮で豊富な牧草の十分食べられる場所に先導します。羊を一つの群れに集めると番がし易くなります。羊飼いは羊が十分食べたか分かり易くなり、また羊を散らし殺す者から守り易くなります。

これは、靈魂の羊飼いにも同じことがいえます！ 靈魂の羊飼いは靈魂に豊富で十分な靈的食べものを与えるように注意しなければなりませんし、靈魂にしっかりした食べものを食べさせることの出来る者です。羊飼いは信者たちを思いやりと真理の共同体に保つように求めなければなりません。羊飼いはどのような場合に靈魂を失う危険があるかを預かっている者に警告しなければなりません。

靈魂の羊飼いが彼を信頼している信者たちに関して責任を持っているとするならば、同様にキリストを信じている信者たちも彼らの羊飼いに関して責任があります：彼らは羊飼いについて行かなければなりませんし、羊飼いの声を聞き分けなければなりません：「わたしの羊はわたしの声を聞き分ける．．．」。もし信者たちが自分の個人的好みだけに従って行動するならば、どのようにして自分の羊飼いに導かれて靈魂のためにしっかりした食べものをみつけることが出来るのでしょうか。信者たちの第一の役割は自分の羊飼いに従うことです：聖パウロが「信仰による従順」(ローマ1:5)と呼んでいることを行わなければなりません。自分の群れを羊飼いにおいて認めないならば、どのようにして信者たちは統一を保っていくことができるのでしょうか？

「信仰による従順」において一人の人が彼に本当に委ねたい人たち皆をまとめる必要があります。羊飼いが必要な助けをもたらすように特に委ねられているとき、どうやって信徒たちだけで悪の力に対して完全に自分を守ることができるのでしょうか？ 羊飼いは必要な助言や秘跡の力を与えるために信者たちの真ん中にいます。

イエスは善い羊飼いです！ イエスは羊飼いであるだけでなく、御父がイエスに託している人々の食べものでもあります！ 善い羊飼いは羊たちにご自分を食べものとして与えられます！ キリストのからだはただ一つあります：生命のパンを食べる人は皆キリストのからだを受けます。善い羊飼いであるイエスはこのようにして羊たちの統一体を成し遂げます：全ての人はいエスにおいて一つになります。同時にイエスは全ての人を悪から守ってくださいます：食べものであるご聖体は、信者たちに神聖な使命を与えます！

イエスに感謝しましょう！ 自分の中に善い羊飼いを迎え入れ、羊飼いについて行き、羊飼いの声を聞き取りましょう。

(Sr. Paulina)

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (35)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

アルコレア

アルコレアは、1868年の革命の勝利を決定的にした、グアダルキヴィル川に架かる橋のそばの戦いによって有名になりました。

十字架の聖ヨハネの時代では、アルコレアの宿屋が有名でした。或る日、十字架のヨハネ修士が、忠実な従者マルティン修士と共に、コルドバからブハランセへ歩いて行く途中、アルコレアの宿に着き、そこでマルティン修士が次のように語っていることが起こりました。

「宿屋の戸口に着飾った女が出てきて、男たちの前で、みだらな仕草や言葉で彼らを誘惑し、試み始めました。

くだんの聖人はこれを見ると、彼女を叱り、彼女の靈魂を私たちの主イエス・キリストが聖なる御血をもって贖ってくださったことを思い起こし、恥を知るようにと言いました。

そうすると、その女は、聖人を見つめながら、気絶するように地面に倒れてしまい、長い時間、顔をゆがめていました。人々がその顔に水をかけ、そこにいた何人かが脈を見ました。それから少しして、彼女は我に帰り、告解を願い、良い人になって、私たちの主なる神に仕えたいと言いました。聖なる神父は、しばらく彼女を慰め、主についてあれこれ話をしながら、彼女と共にいました。そして彼女がコルドバの修道院へ行き、そこで告解するようにと文書を手渡しました。なぜならくだんの聖人は、その女には長いていねいな告解が必要だと気づいたからです。こうしてその女はコルドバの修道院へ行き、回心した後、結婚し、その身分にありながら、その町で多くの徳と祈りと模範をもって生涯を過ごしました。またこのことの証人である私は、多くの人から、彼女が聖フランシスコの修道服と質素な縄を身にまとい、非常に良い模範となって過ごしたということも聞きました。このことはすべて、聖なる十字架のヨハネ修道士に出会ったことによると考えられます。その女への憐れみから、私たちの主はこの聖人を使い、その偉大な宗教的熱情と愛によって導いたのです」。

どぶ川の清掃

そのどぶ川は、今でも東京都の町中のある場所に流れています。この近代化した東京の真ん中に、未だに昔ながらのごつごつした数多くの石をかかえ、大きな木片や瀬戸物のかげらが、相互にひっかかりながら、流れるともなく、それでいてやはり流れているのです。例えば多摩川のような大きな流れで、人家が川の上手の向こう側にあったりすると、規模が大きいので、排水・その他に直接関係しないので、あれ程の不潔さはないのでしょうか……

このどぶ川の沿岸に住んでいる人は、その不潔さには無頓着なので、川は遠慮せず自由に流れています。もし川に声があったなら、「やめてくれよ。こんな汚いものは背負いたくないよなあ」と言っているかもしれません。それを受け入れるのは「川」であって、犯人の人間には聞こえないのです。こんなどぶ川を見るたびに、私はいつか人間の心の中にも こんな景色があるのでは、と思うことがあります。

つまり心にひっかかるもの、(自分にとってイヤなもの)が ゴミの役目をしているのです。そうすると、この人の心は清掃されていないので、どうしても行動に積極性が出ず、エネルギーがにぶります。

これを自覚するのは難しいことですが、しかし霊的に成長するには、ゴミが何なのかを見極める必要があります。そのためには自分自身をいかに客観的に見極めるかが必要です。そのように「客観的に見る」ことが出来るようになるのが心の成長だと思っただけですが、これは、そう簡単に道徳論的には結果が出てきませんが…… ですから神さまは、わざわざキリスト(救い主)として人間性をとられ、しかも種々の受難を受けられ、最後には十字架につけられて身も心も全部父である神様に返されたのでした。キリストの受難と死の重みを、歳を重ねるたびに心中に刻ませていきたい と思っています。

お告げのフランシスコ姉妹会 Sr. 熊田 照子



以前にもこの欄で登場させた横綱朝青龍が、先日突然に引退を発表しました。横綱としての業績は、歴史に残る輝かしい偉大なものでありながら、数々の不祥事で世間をさわがせ、あげくの果てのいわば不本意の引退であり、本人にとっても又彼を愛するファンにとっても、そして私自身としても何とも納まりのつかない落ち着きどころのない幕引きではありました。

同じようにと云っては語弊があるかもしれませんが、先のバンクーバーオリンピックで、スノーボードの国母和宏選手の服の着方が良くないということが話題となり、テレビなどの報道でもあれこれと論評され、国会でも取り上げられたとか。出場を辞退するのしないのと大騒ぎをして、結果は開会式に参加しないということで収束となったようです。

この騒ぎのお陰でスノーボードハーフパイプという競技を観戦した人は少なくなかったようです。私もこのような競技があることをこれまで全く知らなかったのですが、見るに及べば大変に魅力的な競技ではありました。

高低差のある美しい半円筒の空間に、我が身を手毬のように放り投げ、くるくると舞い上がり、次の瞬間猛スピードで滑降落下するさまは目をみはる豪快且つ優美で、滞空時間の長さといまっぴらあたたかも鳥のようにも思えて楽しく見ていて飽きることはありません。

国母選手は惜しくもメダルは逃しましたが、日本人としてただ一人の入賞でした。優勝者のショーン・ホワイト選手は、ひとつの新しい技を編み出し習得するまでには、幾多のクラッシュを身に負い一年という月日を要するのだと話しています。正に満身創痕の賜物なのでしょう。

朝青龍と国母選手に気持ちを注ぐ中で、今 私はしきりに「トリックスター」という言葉を思い浮かべるのです。

「トリックスター」とは、辞書によると《神話や民間伝承に現れるいたずら者。社会の道徳、秩序の破壊者でありながら一方で創造者であり、文化の活性化の役割を担う存在である。善と悪など矛盾した性格の持ち主で、対立した二項間の仲介、媒介者の役目を果たす》とあり、ギリシャ神話のプロメテウスなどが挙げられています。

朝青龍と国母選手をトリックスターになぞらえるのではないのですが、私はトリックスターというものに何故か非常に心惹かれます。

又これは全くの好みの問題でもありますが、世界の芸術家たちもいわゆる

破滅型と云われる人が好きです。

どうしてもそうせずにはいられない、どうしてもそうになってしまうのだ、どうしても限りを越えざるを得ないのだ、という或る受動性に動かされ結果的に身をも滅ぼしていく創造に魅了されます。

そもそも創造とは、受動的なものなのだと云っていいのかもしれませんが。そしてことの大小にかかわらず創造とは破壊というものが否応なく深く関わっているように思います。何かを失うことなくして新しいものを造ることはできないというのでしょうか、どうしても或る犠牲というべきものを必要とするのではないかと思うのです。

事実「創」という字はきずという意味、詳しくは刀できずつくことと云います。物騒な危険な感じを有してそれが「造る」と合わさって創造です。

考えてみるのですが、トリックスターではないとしても私たちも或る意味創造者と呼んでいいのかもしれませんが。私たちの最たる創造とは、旧い自分に死に、新しいいのちに生まれ変わって生きていく信望愛のこの生そのものといえるでしょう。キリストは父母、兄弟、姉妹、財産、そして自分の命までも、ことごとく捨てなければわたしの弟子にはなれないと云われます。

ここを心こめて生きるとき、痛み、犠牲、そして勇氣は必須なのですが、しかし、この痛み自体がとりもなおさず共なるお方への切なる祈りであり、切なる賛歌であることを、私は深く知っていくのです。

トリックスターなるものを理屈でなく愛好するものですが、今さまざまに考えをめぐらします。

創造と破壊というように相反するもの、対立するものをひとつにする力こそが、愛であるキリストご自身なのだと。

あらゆる対立の象徴とも思えるあの十字架の形。上と下、右と左の十字形のだ真ん中に磔けられ、死んでおられる主イエズスの姿を、私は今 声にならない叫びを上げつつ魂に刻みます。

復活に想いを馳せつつ結語です。

イエズスが上下左右のだ真ん中で死んでくださったのは、ひとえにこの私のためです。『わが主よ わが神よ』

いのちの言葉 3月

はっきり言っておく。もし、からし種一粒ほどの信仰があれば、この山に向かって、『ここから、あそこに移れ』と命じても、そのとおりになる。あなたがたにできないことは何もない。
(マタイ17・20)

誰かに助けてもらいたいと思う反面、自分の状況を変えることは誰にもできないと感じることが、人生の中では何度もあるでしょう。そんな時、無意識の内にあなたは、不可能を可能にされる方に助けを求めましょう。その方とはイエスです。彼の言葉を聞きましょう。

はっきり言っておく。もし、からし種一粒ほどの信仰があれば、この山に向かって、『ここから、あそこに移れ』と命じても、そのとおりになる。あなたがたにできないことは何もない。

「山を動かす」という表現は、文字通りに受け取る必要はありません。イエスは、人々が目をみはるような奇跡を弟子たちに約束された訳ではありません。私の知る限り、教会の歴史においても、信仰によって山を動かした聖人はいません。「山を動かす」とは、「信仰があるなら不可能はない」という考えを弟子たちの心に植え付けるため、イエスが用いられた誇張表現なのです。

実際、イエス自ら、あるいは弟子たちを通して果たされた奇跡は、常に神の国と福音のため、人々の救いのために行われたのであり、山を動かすことは、そのためには役立ちません。

また「からし種」のたとえからは、イエスが、ある程度の信仰でなく、本物の信仰を求めておられることがわかります。真の信仰の特徴とは、自分の能力でなく、ただ神に信頼することです。

信仰に関する疑いや迷いが出てくるなら、神に対する私たちの信頼はまだ不十分ということでしょう。私たちの信仰は弱く、実りに欠け、自分の力や人間的な考え方を土台としているのです。

一方、完全に神を信頼する人は、神ご自身が働いてくださるよう、すべてをお任せします。そして、神に不可能なことは何もありません。

イエスは、弟子たちが神を完全に信頼することをお望みです。その時、神はご自分の力を表わされます。

山を動かすほどの信仰は、特別すぐれた人だけのものではなく、信仰者皆が持つことができ、そうすべきことなのです。

はっきり言っておく。もし、からし種一粒ほどの信仰があれば、この山に向かって、『ここから、あそこに移れ』と命じても、そのとおりになる。あなたがたにできないことは何もない。

イエスがこの言葉を語られたのは、弟子たちを宣教に派遣された時だと言われます。

私たちも、福音の真理を伝える対象である無数の人々を前にして、自分たちは十分な養成も受けておらず、特別な才能もない小さな群れだと感じ、勇気を失い、不安に陥ることがよくあるでしょう。また、神の国とは無関係のことにだけ関心のある人々を見ると、落胆してしまうこともしばしばで、自分たちには無理だ、と誤ってしまいます。

そのような時こそ、信仰があるなら「『世の無関心や無視という山』を動かす」ことができると、イエスは保証して下さいます。信仰があるなら、イエスに従う人々に不可能はありません。

そして、このみ言葉は、福音と人々の救いに役立つ限り、どんな状況にもあてはめることができるものです。

私たちは、乗り越えられぬ困難を前にすると、

神に向かうことさえしない誘惑にかられ、「もういい。どうせ何の役にも立たない」という人間の思いが出てくることがあります。

そのような時こそ、勇気を失わず、信頼をもって神に向かうよう、イエスは勧めておられます。神は何らかの形で、きっと聞き入れてくださるでしょう。

レッラにも、そのようなことが起こりました。彼女はベルギーのフランドル地方で新しい仕事を見つけ、希望にあふれて始めたのですが、数ヶ月後には、失望と孤独感に苦しむようになりました。同僚の若い女性たちとの間に、越えられない壁を感じていたのです。レッラは、愛を込めて皆に奉仕する願いを抱いていましたが、一人ぼっちな外国人である自分を痛感していました。

問題は、自分にとっても同僚にとっても外国語である、フランス語を話さねばならないところにありました。ベルギーでは、皆フランス語を話すと聞き、レッラはフランス語を学んでいたのですが、土地の人々と触れて初めて、フラマン人は学校でフランス語は学んでも、生活の中で使うのを好まないとわかったのです。フラマン語ができないという差別の「山」を動かそうと、レッラは何度も試みましたが、無駄でした。

「皆のために、私に何ができるかしら」と思っていた、そんなある日、同僚のゴテリーブの悲しげな顔が目に見え、ゴテリーブはその晩、食事に手もつけず、自分の部屋に引きこもっていました。レッラは彼女の部屋まで行ってみましたが、扉の前で、気後れとためらいに立ちすくみました。ノックしたいのはやまやまでしたが、「どんな言葉で話せばいいのだろう」と思うと、数秒後には、今回もあきらめて立ち去らざるを得ませんでした。

翌日、レッラは教会に行って、一番後ろの席に座り、こぼれる涙を見られないよう両手で顔を覆いました。教会は、他の言葉で話したり説明したりする必要のない、唯一の場所でした。そこには、言葉を越えてわかってくださるお方が、おられたからです。レッラの心は苦しみでいっぱいでしたが、イエスはわかってくださるという確信に促され、彼に問いかけました。「なぜ私は、同僚の十字架を共に担うことができないのでしょうか。主よ、

私があなたに出会った時、あなたご自身、『すべての苦しみは愛だ』と私にわからせてくださいました。私はこれをどうやって同僚に伝えればいいのですか。」

レッラは、自分の人生の闇を照らしてくださったお方から答えを待つかのように、聖櫃を見つめていました。ふと、その日の福音の箇所を目をやると「信頼しなさい。私はすでに世に勝っている」¹という言葉が飛び込んできました。み言葉は、油が注がれるようにレッラの心に染みとり、彼女は大きな平和を得ました。

レッラが朝食のため寮に戻ると、寮で働いているアンニという女性に会いました。レッラは彼女に挨拶すると、一緒に貯蔵庫に行き、何も言わずに朝食の準備を手伝い始めました。

その朝、最初に食堂に来たのはゴテリーブでした。誰にも会いたくなかったのか、急ぎ足でコーヒーを探しに台所に入ってきた彼女は、足をとめました。レッラから感じられた平和が、どんな言葉よりも強く、ゴテリーブの心に触れたのでした。

その晩、レッラが寮に戻る道すがら、自転車にのったゴテリーブが後ろから声をかけてきました。彼女は、レッラも分かるような易しいフラマン語で、こう言いました。「言葉はいらないわ。今日、あなたは生き方を通して、私に伝えてくれたのよ。『あなたも愛することを始めて！』って。」

山は、動いたのです。

キアラ・ルービック

今月の言葉は1979年9月に発表されたものです。

★ いのちの言葉は聖書に書かれた言葉を熟読し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

連絡先

フォコラーレ：03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ：[\[フォコラーレ\]で検索](http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito)

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito>

¹ ヨハネ 16・33 参照

1 日静修に参加して



名古屋で開催されている『カルメル会 1 日静修』は私にとって信仰の導きです。初めて参加したのは堅信を受けて間もない時期で、これからどうやって信仰生活をおくっていけばいいのかわからず悩んでいました。そんな時、日比野教会で神父様が 1 日かけて主の教えを指導してくださる研修があることを知り、歓喜した私は迷うことなくその扉の中に飛び込みました。

求めていることが現実になったのです。本当に嬉しくて、聖霊の導きに感謝しました。

1 日の流れは、聖体賛美式につづいて午前・午後それぞれ約 1 時間の講話があり、その後、ミサに与かります。原則として自分の中におられる主と語り合うために「沈黙」を守ります。ミサが終わると自由参加の茶話会があり、この時に本日の学びと信仰の分かち合いを行います。

講話の内容は当日担当される神父様方が年間テーマに沿って教理や聖書だけではなく身近な現代社会のできごと、映画や本の話題なども取り入れてお話になります。丁寧に聖書をひも解き、史実から解説して下さるので、新約・旧約聖書についても広く学ぶことができます。

テーマによってカルメルの聖人の教えに触れられることもあり、カルメル会の深い信仰に満ちた教えによって、主キリストとの一致へと導かれます。神父様方の熱心なご指導を通して惜しみない主の愛が心に沁みとおります。その素晴らしい教えに心ときめかせて、静修のあった夜は眠れなくなることもあります。

このように、もっと主と親しくなりたいと考えるようになりました。私の魂は主を仰ぎ慕い求めてやみません。喜びの時も悲しみの時も主に語りかけ、内なる主の声に耳を傾けながら、みことばによって生きることができますようにと願います。私の人生にはいつも主が同伴して歩んでくださっていることを確信できるようになりました。それは苦しみの中でもがいている時や孤独の時によりいっそう強く感じます。罪深い不逞な私でさえ主は見捨てずに愛して下さっていることを感じるようになりました。それは主の愛によって救いがおとずれることを信じられるからです。

こうして私の信仰心は 1 日静修に招かれたことにより育まれました。これからも主のみこころのままに新たにされて光の子となり、主なる神の平和の道具として用いていただけたら幸せです。

神に感謝 ♪



安藤 好枝 (布池教会)

カルメル会の企画案内



上野毛霊性センター ‘10年4月～’11年3月黙想企画 ** 聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 一泊聖書深読 新井延和神父

2010年 (毎回金曜日 夕食～土曜日16時)

- ① 4月 9日～10日
- ② 6月 18日～19日
- ③ 9月 10日～11日
- ④ 11月 12日～13日

※2010年は、上述日程での深読黙想 (指導：新井延和神父) となります。

2. 奉獻生活者のための黙想会

2010年

- | | | |
|---|----------------------------|--------|
| A | 7月20日 (火) 夕食～7月29日 (木) 朝 | 松田浩一神父 |
| B | 7月31日 (土) 夕食～8月 9日 (月) 朝 | 福田正範神父 |
| C | 8月11日 (水) 夕食～8月20日 (水) 朝 | 中川博道神父 |
| D | 11月 2日 (火) 夕食～11月11日 (木) 朝 | 福田正範神父 |
| E | 12月27日 (土) 夕食～ 1月 5日 (水) 朝 | 中川博道神父 |

3. 木曜黙想会 (毎回木曜日 10時～16時)

2010年間共通テーマ 《道》

- | | | |
|--------|-----------------|---------|
| 4月22日 | 神の愛に包まれる道 | 松田浩一神父 |
| 6月17日 | 主よ、あなたの道を教えて下さい | 福田正範神父 |
| 9月16日 | 真福八端を生きるイエスの道 | 今泉 健神父 |
| 11月18日 | 神の国への道 | ベルナルド神父 |
| 1月20日 | 荒野をゆく道 | 中川博道神父 |

4. 金曜黙想会 カルメルの聖人 (毎回金曜日 10時~16時)

2010年度

| | | |
|-------------|-------------|---------|
| 5月21日 | 三位一体のエリザベット | 福田正範神父 |
| 7月 9日 | アピラの聖テレジア | 福田正範神父 |
| 10月29日 | カルメル山の聖母 | ベルナルド神父 |
| 12月17日 | リシューの聖テレジア | 今泉 健神父 |
| 2011/ 2月25日 | 十字架の聖ヨハネ | 中川博道神父 |

5. 「社会人のための心の休息」一日常のキリスト教靈性を求めて—

(毎回金曜日 20時~ 土曜日 15時)新しい企画

松田浩一神父

2010年度

- ① 4月23日 (金) ~24日 (土)
- ② 5月14日 (金) ~15日 (土)
- ③ 6月25日 (金) ~26日 (土)
- ④ 7月 9日 (金) ~10日 (土)

尚、この企画は社会人(働いている人)の靈的・心的修養とキリスト者の召命を目的として、靈的同伴・靈的指導を中心としながら、行っていきます。金曜日の仕事帰りにも気軽に参加してください。参加希望者は、前日の木曜日迄に、聖テレジア修道院に申し込んでください。

6. 青年黙想会 (男女)

中川博道神父・神学生

5月22日 (土) 16時 ~23日 (日) 16時
 11月20日 (土) 16時 ~23日 (火) 14時

7. 召命黙想会 (男女)

中川博道神父・神学生

10月9日 (土) 16時 ~11日 (月) 16時

【聖週間を祈る】・・チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能。

2010 4月1日(木)～4日(日) 《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】・・チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2010 12月24日(金)～25日(土)《講話なし、夕食なし》

9.特別黙想会 伊従信子NDV テーマ：「私は神を見たい」

5月28日(金) 20時～30日(日) 16時(28日は夕食を済ませてご参加ください)

10月15日(金) 20時～17日(日) 16時(15日は夕食を済ませてご参加ください)

10.待降節黙想会

2010/12月 3日(金) 夕食なし～5日(日) 昼まで 指導：カルメル会士



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません
のでなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたしません)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp



「カルメルの靈性に親しむ」

—カルメルの靈性をとおして イエスとの出会いの道を探します—

担当：中川 博道 (カルメル修道会)

どなたでも いつからでもご参加ください

2010年 予定表

場所：カトリック上野毛教会 (信徒会館)

朝のクラス (火曜日)

夜のクラス (金曜日)

《10:30~12:00》

《19:15~20:45》

| | |
|----------------|----------|
| 2010年 1月 19日 了 | 了 1月 22日 |
| 2月 23日 了 | 了 2月 26日 |
| 3月 9日 了 | 了 3月 12日 |
| 4月 13日 | 4月 16日 |
| 5月 18日 | 5月 21日 |
| 6月 15日 | 6月 18日 |
| 7月 6日 | 7月 2日 |

<お問い合わせ：carmel-reisei@hotmail.co.jp>

木曜黙想会・2010テーマ「道」

「神の愛に包まれる道」



対 象: どなたでも
日 時: 4月22日(木) 10時～16時
場 所: カルメル会聖テレジア修道院(黙想)
担 当: 松田浩一 神父
会 費: 3,500円

お申込みは下記〈聖テレジア修道院(黙想)〉へお願い致します。

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)
158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
電話 03(5706)7355
FAX 03(3704)1764
Email: mokusou@carmel-monastery.jp

金曜黙想会・カルメルの聖人

「三位一体のエリザベット」

神はわたしのうちに、わたしは神のうちに

日時：2010年5月21日（金）

10:00～16:00

指導：福田 正範師（カルメル会司祭）

場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）

会費：¥3500（昼食付）



『社会人(働いている人)のための心の休息』

— 一日常のキリスト教靈性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の靈的・心的修養を目的として、靈的同伴・靈的指導を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

- この企画は、個人的靈的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(靈的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとしてユークスリングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行われるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6人

【開催日】

- ③ 4月23日(金)～24日(土)
- ④ 5月14日(金)～15日(土)
- ⑤ 6月24日(金)～26日(土)
- ⑥ 7月 9日(金)～10日(土)

①②終了

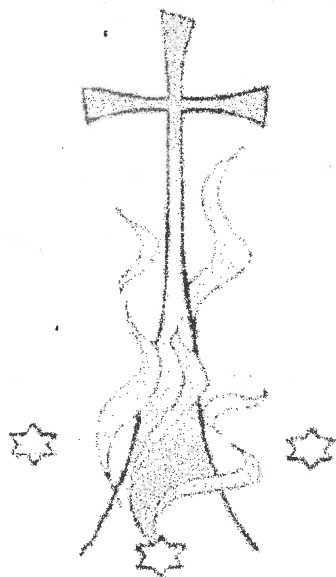
(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)

【参加費】 各回 5,000円

【靈的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
 カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)
 Tel 03-5706-7355、Fax 03-3704-1764
 E-Mail: mokusou@carmel-monastery.jp



聖書深読黙想会

〈一泊〉

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。
指定された主のみ言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。
聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交わる人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、福音を生きることです。皆様のご参加をお待ちしています。

* 日時：2010年 4月 9日（金）18時～10日（土）16時

（曜日が金曜～土曜日となりましたのでご注意ください）

* 場所：カルメル会聖テレジア修道院黙想・黙想の家

* 指導：新井延和師（カルメル会司祭）

* 会費：¥7000

* 持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ

（タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります）

聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。



参考書：「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎著 ¥1050）

ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。



お問合せ・お申込は、TEL. FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

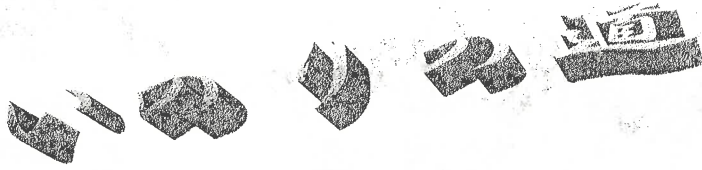
カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

Tel.03-5706-7355

Fax.03-3704-1764

特別黙想会 《わたしは神をみたい》

神と親しく生きる



2010年5月28日（金）20時～30日（日）15時

日々のあらゆるわずらわしさから離れ、

しばらく神のみ前に立ち止ってみませんか？

ゆきなれた路の

なつかしく

耐えられぬように

わたしの いのりのみちを

つくりたい

— 八木重吉 —



- 指 導： 伊従 信子師（ノートルダム・ド・ヴィ会員）
 - 持参品： 新約聖書（黙想の家にも備えあります）
『神と親しく生きる いのりの道』 マリー・エウジェンヌ ocd 著、聖母文庫
（黙想の家で購入できます）
筆記用具、バジヤマ、洗面用具
（タオル、バスタオル、石鹸、シャンプーあります）
 - 参加費： ￥12000
 - 場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）
158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25 Tel 03-5706-7355
- * 申し込み方法 FAX. 03-3704-1764または、ハガキにてお願い致します。
* お問合せTEL. 03-5706-7355

青年黙想会



イエスと一緒に生きるにはどうしたらよいのですか？

- 日時： 5月22日（土）16時 ～ 23日（日）16時
場所： カルメル会聖テレジア修道院（黙想）
対象： 高校生以上の青年男女（35才まで） 定員：20名
指導： 中川博道神父・神学生
費用： 一般 5,500円 学生 4,000円
締切： 5月14日（金）〈必着〉

お申し込みは、住所・氏名・年齢・電話番号を明記し、ハガキ・FAX・Eメールで下記まで。

158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会聖テレジア修道院（黙想） 青年黙想会係
☎03 (5706) 7355 Fax 03 (3704) 1764
E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp

| |
|----------------------------------|
| ‘10年4月～‘10年12月まで 黙想会案内 (宇治カルメル会) |
|----------------------------------|

1. 聖書深読

一日 (午前10時から午後4時)

| | |
|------------|--------|
| 4月10日 (土) | 渡辺幹夫神父 |
| 6月26日 (土) | 新井延和神父 |
| 10月30日 (土) | 九里 彰神父 |
| 12月11日 (土) | 新井延和神父 |

2. 一般のための黙想

一泊二日 (午後5時～午後4時)

| | | |
|--------------------|-----------|--------|
| 5月29日 (土)～30日 (日) | 互いに愛し合うこと | 新井延和神父 |
| 7月10日 (土)～11日 (日) | マリア 喜びの人 | 渡辺幹夫神父 |
| 9月25日 (土)～26日 (日) | 幼子の平和 | 九里 彰神父 |
| 11月20日 (土)～21日 (日) | 神の国が始まる | 新井延和神父 |

六泊七日 (午後5時～午前9時) ※修道者も可能

| | | |
|--------------------|------------|--------|
| 4月29日 (木)～5月5日 (水) | 復活した主との出会い | 九里 彰神父 |
|--------------------|------------|--------|

3. 水曜黙想 (午前10時～午後4時)

| | | |
|------------|---------------|----------|
| 4月21日 (水) | 復活の喜び | アダミニ神父 |
| 5月12日 (水) | 生きておられる主 | 九里 彰神父 |
| 6月 9日 (水) | 司祭と聖体 | 渡辺幹夫神父 |
| 7月21日 (水) | カルメル山の聖母マリア | 新井延和神父 |
| 9月15日 (水) | 福音と共にキリストに従う道 | Sr. ポーリン |
| 10月13日 (水) | アピラの聖テレサ | アロイジオ神父 |
| 11月10日 (水) | 三位一体のエリザベット | 伊従信子師 |
| 12月15日 (水) | 御言葉は人となった | 九里 彰神父 |

4.待降節黙想（午後5時～午後4時）

2010年12月 4日（土）～12月5日（日）

渡辺幹夫神父

5.聖テレーズの黙想（午後5時～午後4時）

9月30日（木）～10月 1日（金）

伊従信子師

6.召命黙想会（午後5時～午後4時）

対象:40才以下の青年男女

5月 8日（土）～5月 9日（日）

収穫は多いが働き手は少ない

九里 彰神父

7.奉獻生活者の黙想（午後5時～午前9時）

2010年度

8月 2日（月）～8月11日（水）

新井延和神父

8月18日（水）～8月27日（金）

九里 彰神父

10月12日（火）～10月21日（木）

九里 彰神父

12月27日（月）～ 1月 5日（水）

新井延和神父

・ 9.青年のための黙想（午後4時～午後5時） 男女性のため

11月 6日（土）～11月7日（日）

今泉 健神父

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

*申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、なるべく午前9時～午後5時の間をお願いいたします。受付が休みになっている時はすぐに返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

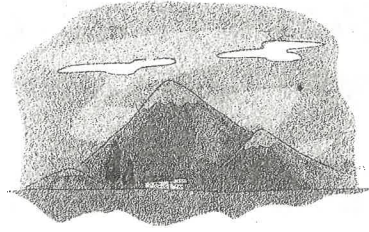
宇治カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

TEL 0774-32-7016

FAX 0774-32-7457

e-mail carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp



「カルメルの靈性に学ぶ」

～十字架の聖ヨハネの靈性～

1) テキスト：『カルメル山登攀』（ドン・ポスコ社）
（いつからでもどうぞ、4月は第2部8章から）

2) 日時：毎月一回

4月24日（土）14：00～15：30

5月22日（土）14：00～15：30

6月26日（金）14：00～15：30

3) 講師：^{くのり}九里 彰神父（カルメル会）

4) 場所：カルメル会宇治修道院
信徒会館集会室

《宇治カルメル靈性センター》

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

Tel. 0774 (32) 7456 Fax 0774 (32) 7457

「立ちどまって、ひとりになって、聞いてみよう！」

～都会の中の一泊静修～（2010）

この会は、現代の忙しい社会の中にあつて、また都会の中にあつて、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」（マタイ28：20）と言われました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみたいかたでしょうか。

今年は、年間共通テーマとして、『混沌の時代を生きる道筋を探して』としました。

このテーマを通して、聖書のみ言葉やそれを生きるカルメルの聖人たちの言葉を通して、キリストの光を受け、混沌の時代を生きる私たちが、生きるための道筋を探していくことができますように・・・

| | | | |
|------|------------|-----------------------------|--------------------|
| 第4回 | 4月24日（土） | 主が教えてくださった祈りの道 | 新井延和神父（宇治修道院） |
| 第5回 | 5月22日（土） | 聖テレジアの示した道 | 松田浩一神父（上野毛修道院） |
| 第6回 | 6月26日（土） | 真福八端を生きる道 | 今泉健神父（上野毛修道院） |
| 第7回 | 7月19日（月）祝 | カルメル山登攀の道～十字架の聖ヨハネの示した道～ | 九里彰神父（宇治修道院） |
| 第8回 | 9月18日（土） | 貞潔で、貧しく従順な方イエスに従う歩み | Sr.パウリナ（宣教カルメル修院） |
| 第9回 | 10月30日（土） | 小さき道、幼いイエスの聖テレジア | Sr.ベアトリス（宣教カルメル修院） |
| 第10回 | 11月23日（火）祝 | 主が教えてくださった新しい旅の道、『私か愛したように』 | 三上和久神父（三馬修道院） |

※第1回～3回終了

- * 時間 AM10:00～PM4:00
- * 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分 *聖テレジア幼稚園隣接)
- * 参加費 1,000円
- * 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
- * 定員 約30名
- * プログラム
 - 10:00～ 祈り・導入・黙想
 - 10:30～ 講話【1】
 - ～(赦しの秘跡または面接)
 - 12:15～ 昼食
 - ～(赦しの秘跡または面接)
 - 13:30～ 講話【2】
 - 14:45～ ミサ
 - 15:30～ 茶話会・分かち合い
 - 16:00 終了

申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825

一泊静修係 〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚・晃子

TEL・FAX052-701-3685

2010年度名古屋聖書深読会

第1回 5月1日(土) 新井延和神父(宇治修道院)

第2回 10月2日(土) 新井延和神父(宇治修道院)

- 時間 午前10時～午後4時
- 場所 カトリック日比野教会
地下鉄名城線日比野下車、徒歩約5分 *聖テレジア幼稚園隣接
- 参加費 ￥1000
- 持ち物 聖書・筆記用具・ノート・昼食等

* 毎回、事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

* 申し込みは、開催日の3日前までにFaxまたはハガキで下記へお願いします。信徒の方は、所属教会名も記載下さい。

* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたでも構いません。

☞ 申し込み先

名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院

FAX052-671-1825

または

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115

小林 厚・晃子

TEL/FAX052-701-3685

聖書深読センターのご案内

- 1 東京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解読が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

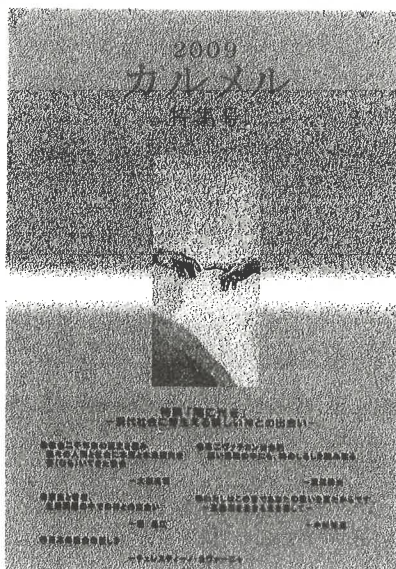
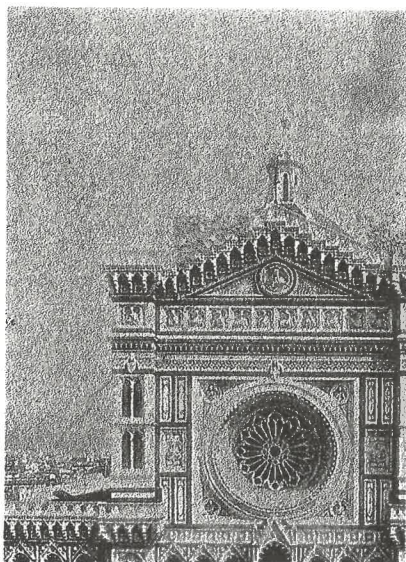
所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

カルメル会出版物のご案内

「観想」を読むー



雑誌「カルメル」NO336 (2010年春号)「今日の靈性」 新発売

馬屋の靈性 (5) - 「生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる」 I …高橋重幸

マリアの旅 (7)

…中川博道

ある聖人の子供の祈り

…ペトロ・アロイジオ

「どこにお隠れになったのですか」(3)

ー十字架の聖ヨハネに見る靈の旅路

…九里 彰

聖性への招き 十字架の聖ヨハネに導かれて (2)

…マリー・エウジェンヌ

編・訳 伊従信子

アビラの聖テレジアの靈性における自由 (1)

…ベアトリス・デクンハ

「小さい道」の巡礼者 (8)

テレーズの修練者ー三位一体のマリー

…中山眞里

脳は宇宙ほど広く深い？

…森 みさ

愛の断章 (15)

…奥村一郎

雑誌「カルメル」NO335 (2009年冬号)「今日の靈性」

- 馬屋の靈性(4) —イエスを拒む者と受け入れる者 …高橋重幸
マリアの旅(6) …中川博道
今日の歌(6) …ペトロ・アロイジオ
「どこにお隠れになったのですか」(2)
—十字架の聖ヨハネに見る靈的旅路 …九里 彰

- エリザベットの「魂のこだま」、ギット(12)
—「生きているのはもはやわたしではない わたしのうちにキリストが生きておられる」
…伊従信子

- 「小さい道」の巡礼者(7)
—テレーズの修練者—三位一体のマリー …中山眞里

- 聖性への招き 十字架の聖ヨハネに導かれて …マリー・エウジェンヌ
編・訳 伊従信子

- 「ヨハネの黙示録」をどう読むか
—シスター今道に導かれて …谷口正子

- 愛の断章(14) …奥村一郎

雑誌「カルメル」 2009年特集号 発売中
「闇に光を」—現代社会に芽生える新しい神との出会い—

購読のご案内

※雑誌「カルメル」はどなたでもご購入(カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等)できます。定価は、一冊460円です。

- 送付希望の方は、600円【内訳 460円(+送料140円)】を下記へお振込ください。
- また、まとめて御購入希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬号・特集号【 $460 \times 5 = 2300$ 円】、送料分【700円】)として、3000円を下記へお振込みください。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
(お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356)

諸所の企画案内



心のいほり

真命山靈性交流センター

リーゼンフーバー神父キリスト教講座

ノートルダム・ド・ヴィ

神の恵みを生きる（2010）

ノートルダム教育修道女会

マリアの御心会

コングレガシオン・ド・ノートルダム

聖パウロ修道会

※ お知らせ

2009年・10号より、諸所の企画記事を
編集係りで集約して打ち込みました。

記載には注意を期していますが、詳細は、
念のため、各問い合わせ先にご照会ください。

また、「投稿募集」ページも、隔月程度の
掲載となります。どうぞご了承ください。

よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

内観黙想の予定表

2010年予定

- F1 4/16日(金)2時-4/22日(木)2時
福岡・御受難会黙想の家
(6泊7日)
- N1 4/29(木)2時~5/5(水)2時
滋賀・唐崎・ノートルダム
(6泊7日)
- O1 5/13(木)2時~5/19(水)2時
沖縄・伊江島・土の宿(6泊7日)
- K3 6/11(金)2時-6/17(木)2時
東京・小金井・聖霊会(6泊7日)
- N2 6/22(火)2時-6/28(月)2時
滋賀・唐崎・ノートルダム(6泊7日)
- Y2 7/15(木)2時-7/21(水)2時
神戸・須磨・ヨハネ(6泊7日)
- H1 7/25(日)2時-7/31(土)2時
北海道・問合せ・聖ピアンネ会
(6泊7日)

先の予定表と若干変わっていますので、
開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西
会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い
合わせてください。

電話では取り次いでおりません。申し込みは
会場予約準備がありますので、10日前迄に
完了をお願いします。

◎572-0001

大阪府寝屋川市成田東町3-27
「心のいほり 内観瞑想センター」
藤原神父 FAX 072・802・5026
<http://www.com-unity.co.jp/naikan>
(ホームページ・アドレス)

予約に決まった後に、会場までの詳しい
地図などの書類をお送りします。

お知らせ

2009年10月号より、掲載スペースの関係上、
諸所の黙想企画記事を、編集部で集約して
打ち込みました。
各御担当者の皆様どうぞご了承ください。

センターニュース編集係

真命山 2010年祈りの集いのご案内

通年テーマ:教父の祈りを学ぶ

祈りの集い(毎回午前10時~午後2時半)

| | | |
|--------|-----------|--------|
| 4月 8日 | 聖アンブロシウス | ダニエレ神父 |
| 5月13日 | 聖ヒエロニムス | フランコ神父 |
| 6月10日 | 聖アウグスチヌス | ダニエレ神父 |
| 7月 8日 | 聖アフラハト | Sr.マリア |
| 8月 | お休み | |
| 9月9日 | 聖エフラエム | Sr.マリア |
| 10月14日 | 聖ベネディクトゥス | フランコ神父 |
| 11月11日 | 大聖グレゴリウス | フランコ神父 |
| 12月 9日 | ロマノ メロドス | Sr.マリア |

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父

(真命山院長)

ダニエレ サルティ・サルトリ神父

Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133

熊本県玉名郡和水町1391-7

真命山諸宗教対話・靈性交流

センター

TEL 0968-85-3100

Fax 0968-85-3186

E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

個人またはグループでの黙想会や研修会も
歓迎いたします。

(要予約)



リーゼンフーバー講座・集いの案内 2010~11年 NEW

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階。キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、

9時30分～12時30分、岐部ホール4階404、
19・20世紀近代・現代のキリスト教関係の
思想・哲学・神学を考察します。思想史とキリスト教の関係に関心を持っている方、プログラム等に関してHP(文末)を見よ。4月10日、17日、5月8日、15日、22日、29日、6月12日、19日、7月3日、10日、24日、9月4日

●坐禅会

月曜日 17時20分～20時10分

木曜日 18時～20時30分

上智大学内 Kulturlハイム1階左の部屋。但し、10月18日、同21日、12月27日、同30日、祝日休み。3回座り、間に講話があります。どなたでも。初心者も歓迎。遅刻、不定期の参加も可。

●座禅接心

(秋川神冥窟) 一泊2,400円程度

4月28日(水)20時30分～5月4日(火)10時

6月25日(金)20時30分～27日(日)10時

8月7日(土)20時30分～14日(土)10時

9月18日(土)12時30分～20日(月)10時

(上石神井)

2011年2月5日(土)8時30分～6日(日)15時30分

5,900円程度

(宝塚)4月24日(土)13時～25日(日)16時

●ミサ 水曜日 17時10分～18時

上智大学内 Kulturlハイム1階

右小聖堂どなたでも。(但し、8月全休、

10月20日、12月29日、祝日休)

●祈りの集い 下記の土曜日

13時30分～16時

上智大学内SJハウス第5会議室

黙想、講話、ミサがあります。

4月10日、5月8日、6月12日、7月10日、

8月7日、9月4日

ロザリオの祈り 同日16時10分～50分

Kulturlハイム1階右小聖堂

●黙想

【会社帰りの黙想】

毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時

聖イグナチオ教会マリア聖堂、どなたでも。

(但し、祝日、8月10日、10月19日、12月28日は休。8月24日は Kulturlハイム聖堂)

【お昼の黙想】 毎月第1・3火曜日

10時45分～12時 聖イグナチオ教会

マリア聖堂 但し、8月3日、祝日休。

【水曜日】18時～18時30分

上智大学内 Kulturlハイム1階右小聖堂。

どなたでも。但し、8月全休、祝日休。

【通う霊燥】8月21日(土)～8月29日(日)

18時～20時45分 上智大学内 Kulturlハイム

聖堂

上述日程等、変更の可能性があり

ます。

詳細等は、下記、リーゼンフーバー神父様のホームページでご確認ください。

●黙想会

6月5日(土)10時～6日(日)15

時、9月11日(土)10時～12日(日)

15時、上石神井。一泊5900円

程度。

●アガペ会

下記の日、説明会(13時30分)

と集い、ミサ(14時～18時)、上智大学内SJハウス

第5会議室 4月18日(日)、6月20日(日)

●クリスマス会・ミサ 12月18日(土)16時30分

聖イグナチオ教会マリア聖堂、18時岐部ホール

4階 要申込。ミサ 12月23日(水)14時～

上智大学内 Kulturlハイム聖堂(80人限定)

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

http://www.jesuits.or.jp/~j_risenhube/index.html/

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座（新年度）

リーゼンフーバー神父キリスト教
入門講座2010年～2011年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

4/20 【人間】 人間:神の似姿
— 理性・自由・信仰

5/18 救いの歴史—時間における意義

4/ 4 復活祭のミサ
(13時、上智大学内クルトゥルハイム2階、
80人限定)

(6月1日以降のテーマ【神】)

4/ 9 信仰の道
— 人生の意味を問う

6/ 1 無限への問い—理性による神理解

4/ 16 聖書の人間像
— 人間の現状と使命

6/ 5～6 黙想会

4/23 旧約聖書の神体験
— 聞くことと見ること

6/ 15 世界の根源
— 創造的自由・進化・摂理

4/30 休 み

5/ 7 神認識の道
— 理性と経験を通して

《場所・お問い合わせ》

5/14 創造された世界
— 人間存在の根拠と
自然の意味

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

5/28 新約聖書の神理解
— 主なる父

クラウス・リーゼンフーバー神父

102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

リーゼンフーバー神父キリスト教
理解講座2010年～2011年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

電話 03-3238-5124{直通}

-5111{伝言}

Fax 03-3238-5056

4/ 4 復活祭のミサ
(13時、上智大学内クルトゥルハイム2階、
80人限定)

上述日程等、変更の可能性があります。

詳細等は、下記、リーゼンフーバー

神父様のホームページでご確認

ください。

各回のテーマ

4/ 6 【基盤】 存在の超越と内在
— 神理解への道

※リーゼンフーバー神父様HPアドレスhttp://www.jesuits.or.jp/~j_risenhube/index.html/

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

●「いのちの泉へ」 すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります。

4月24日(土)
※5月22日(土) (次々回の予定)

講話 伊従信子
午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費 200円

申し込み・お問い合わせ
ノートルダム・ド・ヴィ
177-0044
練馬区上石神井4-32-35
TEL(03)・3594・2247
Fax(03)・3594・2254
E-mail notredamedevie.japan@gmail.com

カルメル会の靈性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。



神の恵みを生きる(2010年)

日時: 5月15日(土)15:00 ~16日(日)15:00まで
場所: ノートルダム唐崎修道院(JR京都駅から30分)
指導: 山内 十束 神父(御受難会)
対象: 独身女性信徒
費用: 2,000円
締切: 5月9日(日)までに

申し込み・問合せ
ノートルダム教育修道女会 Sr,桂川
520-0106 滋賀県大津市唐崎1丁目3-1
Tel 077-579-2884
Fax 077-579-3804
E-メール karainorind92@mbe.nifty.com



ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎所在地

〒520-0106

滋賀県大津市唐崎1丁目3-1

Tel 077-579-7580

Fax 077-579-3804

E-メール karainorind92@mbe.nifty.com

◎交通

JR京都駅から湖西線で三つ目

「唐崎」下車。琵琶湖の方へ徒歩13分

◎日程

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

③ 4月28日(水)～5月6日(木)

④ 6月21日(月)～6月29日(火)

⑤ 8月11日(水)～8月19日(木)

⑥ 9月3日(金)～9月11日(土)

⑦ 10月1日(金)～10月9日(土)

⑧ 11月2日(火)～11月10日(水)

※①、②終了

B. 祈りの体験：週末3日間

(金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

2010年

⑦ 4月9日(金)～4月11日(日)

⑧ 4月30日(金)～5月2日(日)

⑨ 5月14日(金)～5月16日(日)

⑩ 5月21日(金)～5月23日(日)

⑪ 6月25日(金)～6月27日(日)

⑫ 7月9日(金)～7月11日(日)

⑬ 8月13日(金)～8月15日(日)

⑭ 9月3日(金)～9月5日(日)

⑮ 9月17日(金)～9月19日(日)

⑯ 10月1日(金)～10月3日(日)

⑰ 10月22日(金)～10月24日(日)

⑱ 11月5日(金)～11月7日(日)

⑲ 11月26日(金)～11月28日(日)

⑳ 12月10日(金)～12月12日(日)

(他の黙想会が行われている場合があります。)

※①～⑥終了。

C. 講話 黙想(奉獻生活者のため)

(21) 5月27日(木)～6月3日(木)

植栗 彌師(イエズス会)

◎対象：信徒、修道者、司祭、

洗礼を受けていない方、

どなたでも参加できます。

◎霊的同伴者：

菊池 陽子(ノートルダム教育修道女会)

松本 佳子(ノートルダム教育修道女会)

その他 若干名

◎申込み：

1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号)を書いて郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子へ申し込んでください。

唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順11名です。

その他：

◎受付(チェック・イン)：いずれの場合も、初日の15時から16時45分まで。

◎問い合わせ：電話 または、E-メールを御利用下さい。

その他

グループでの黙想会や研修会のために唐崎修道院をご利用なさりたい場合は連絡下さい。

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

マリアの御心会・信濃町共同体

タイトル:「来て、見なさい」プログラム

私が私らしく生きるために ～自分の将来を真剣に祈る～

内容) 一日黙想会と2泊3日黙想会を1シリーズとし、自分の将来について集中して祈り考える企画。

第3回 4月18日(日) 塩谷恵策 神父(イエズス会)
-私があなただを選んだ-
「わたしの呼ばれている道は?結婚・独身・修道生活」

第4回 2泊3日黙想会
5月 1日(土)~3日(月) 英 隆一朗 神父(イエズス会)
「私が私らしく生きるために」
-自分の将来を真剣に祈る-

※第1、2回修了

場所: 第1回~3回 10時~16時 マリアの御心会信濃町共同体
会費1,000円(昼食付き)

第4回 5月1日(土)15時~5月3日(月)15時
長野県富士見 マリアの家(マリアの御心会・山の家)
場所は変更の可能性もあり。

対象: 40歳前後までの独身女性

申込締切:第1~3回は、開催日の3日前まで。

第4回宿泊黙想会は、4月16日(金)まで。

※各回ごと、黙想会のみ参加も可能ですが、出来るだけ継続的な参加をお勧めします。

申込方法: 電話にて マリアの御心会信濃町共同体
電 話: 03-3351-0297

コングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院

テーマ：「聖霊きてください」

指導： 幸田 和生 司教様(東京教区補佐司教)

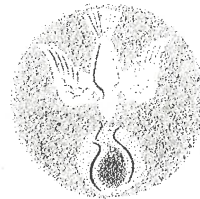
日時： 5月22日(土) 10:00~16:00
受付 9:30~

場所： コングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院
〒182-0034 調布市下石原3-55-1

対象： 男女・年齢を問わず、どなたでもどうぞ。

会費： 2,000円(お弁当代を含む)

申込み： 5月15日(土)まで。
電話 0424-82-2012
FAX 0424-82-2163



定員： 80名まで受け付けます。

主催： コングレガシオン・ド・ノートルダム アソシエート

※当修道院は、新宿より京王線で、調布駅下車。
南口から徒歩で20分。
タクシーで5分。
マルガリタ幼稚園と同じ敷地内です。

テーマ:

「青年召命黙想会」—主よ、なぜこの私を!?

対 象： 自分の道を探している18～35歳までの独身男性

日 時： 2010年4月10日(土)午後1時 ~ 11日(日)午後1時

場 所： 聖パウロ修道会 若葉修道院

指 導： 澤田豊成神父(聖パウロ修道会)

参加費： 3,000円

締切日： 2010年3月31日(水)



申込み・問合せは

〒160-0011

東京都新宿区若葉1-5

聖パウロ修道会

TEL 090-8583-4141(携帯) FAX 03-3351-8606

E-mail: ssp-voc@sanpaolo.or.jp(担当: 山口神父)

新刊案内

リジューの聖テレーズはカトリック教会で最も親しまれている聖人の一人。この書はテレーズが愛した人びとと、テレーズを愛した人びと11人が、どのように心の深みでテレーズと響きあっていたかを見つめながら、その11の愛の道を洞察しています(聖母、十字架の聖ヨハネ、パウロ、三木露風、宮沢賢治、マリー。エウジェンヌ ocd、マザー・テレサなど)、それぞれの独自の愛が心にのこる一冊の本。

テレーズを 愛した人びと



伊従信子

Iyori Nobuko

テレーズと魂の奥深くで響きあった
11人の愛の道

マザー・テレサ、三木露風、宮澤賢治、
三位一体のエリザベット、テレーズが愛した聖母、
十字架の聖ヨハネ、使徒パウロほか

女子パウロ会◆定価(本体)1,400円+税

発売中 女子パウロ会

214ページ 1400円 + 税

『靈性センターニュース』 郵送ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。切手では受け付けておりません。これは、あくまでも郵送代実費です。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「靈性センター事務局」

「上野毛靈性センターへの献金」のお願い

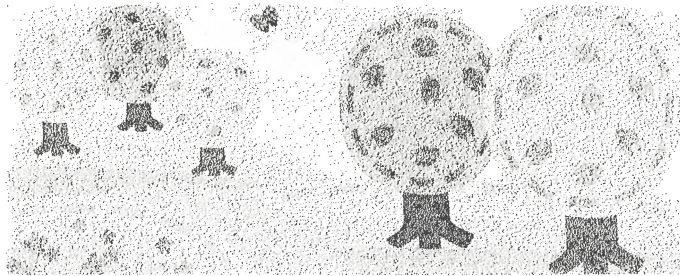
「靈性センターニュース」は、現在、上野毛靈性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

* 献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル靈性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。これは、上記の郵送代ではなく、献金として取り扱わせていただきます。



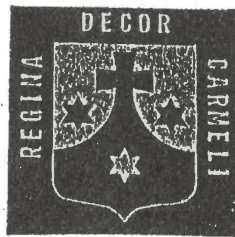
編集後記

先日、ある方からお便りをいただいた。その末尾に、現在、特別養護老人ホーム（武蔵小金井にあるヨハネホーム）にいる奥村一郎神父をたずねたことが記されていた。そこに次のようなエピソードが添えられていた。それは、書道教室の時間に、何か書いてほしいと奥村神父に願ったところ、神父は「相互愛」と書かれ、それを見て皆がしきりに感心したということであった。

実際のところ、認知症のため自分の名前さえおぼつかなくなっているのに、よく書けたものだと驚いたが、その言葉がまたすばらしい。なぜなら、「相互愛」は、旧約の二つの愛の掟、神への愛（申 6:5）と隣人愛（レビ 19:18）を超えるキリストの新しい掟（ヨハ 13:34）として、晩年の奥村神父がしきりに論及していた点だからである。信仰の核心のようなものとして、神父の心の奥底に刻み込まれ、ぎりぎりの言葉として浮上してきたのであろうか。

願わくは私たちも、老いて、人から一言書くように頼まれた時、「お金」とか「権力」といった言葉にならないよう、心がけたいものである。

（P. 九里）



あなたにもできる

「靈性センターニュース」の製本が、毎月第四火曜日（原則）に行われていますが、製本作業には、どなたでも参加していただくことができます。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。一緒にご奉仕をお捧げしましょう！！

「5月号」製本日

4月27日（火）

上野毛教会信徒会館ホール1階

午後1時半頃から～

※参加希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。靈性センター係

TEL 03・3704・2171